

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プロジェクト演習 I		（ NGB12Q ）
講義名（コード）	プロジェクト演習 I A		（ NGB12QA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	グループ学習の目的を理解し、準備と段取りができ、解決案を自分なりに導けるようにする
全体の内容と概要	グループ学習にて、①課題設定 ②情報収集 ③分析と整理 ④まとめ の4つのステップを学ぶ
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	プロジェクトとは	プロジェクトの狙いと流れ
3	グループ学習の狙い分かる	グループ学習の目的、準備、段取り
4	ワークショップとは	ワークショップの狙いと流れ
5	ワークショップを実践してみる	ワークショップ
6	課題解決型学習について理解できる	課題解決するための様々なアプローチを知る
7	課題解決型学習ができる	ワークショップ
8	情報収集について理解できる	情報収集のやり方
9	情報収集ができる	ワークショップ
10	整理と分析について理解できる	情報の整理と分析方法
11	整理と分析ができる	ワークショップ
12	プロジェクトの企画について理解できる	プロジェクトの企画化
13	プロジェクトの企画ができる	ワークショップ
14	まとめ	発表
15	まとめ	発表

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	資料配布
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティング基礎 I		（ NKT13V ）
講義名（コード）	マーケティング基礎 I A		（ NKT13VA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント実務経験、（株）経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日々の生活や行動からマーケティングを考えてみる そしてマーケティングの仕組みを理解し活動意義を探究する
全体の内容と概要	マーケティング的思考をしっかりと身に付け、ビジネス視野を広げ 理解を深めるために、ケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	マーケティング活動について理解できる	マーケティングとはどのような活動なのか、自分の言葉で考えてみる
2	マーケティングの歴史を理解できる	マーケティングはいつからあるのか。またどこでどのようにして誕生したのか
3	マーケティングの概念と仕組みを理解できる	マーケティングを構成する要素である「概念」と「仕組み」について考察する
4	マーケティング・コンセプトを理解できる	マーケティングのコンセプトは時代とともに変化してきている。マーケティングを時代背景とともに考えてみる。
5	①生産指向を理解できる	企業が生産志向とはなにか。時代を遡って考えてみる
6	①生産指向を理解できる	ケーススタディ
7	②販売指向を理解できる	企業の販売指向とはなにか。様々な販促を通して考えてみる
8	②販売指向を理解できる	ケーススタディ
9	③顧客指向を理解できる	企業の顧客指向とは何か。販売指向との違いを考えてみる
10	③顧客指向を理解できる	ケーススタディ
11	④社会指向を理解できる	企業の社会指向とはなにか。SDG s をテーマに考えてみる
12	④社会指向を理解できる	ケーススタディ
13	SDG s の具体的なアクションを考えることができる	ワークショップ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	日々のニュース
備考	担当教員は企業コンサルの実務経験を活かし、身近な事例を用いてマーケティング基礎知識を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化理解 I		（ NKT13J ）
講義名（コード）	異文化理解 I D		（ NKT13JD ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	グローバル化が進む今日の社会で、ダイバーシティーを尊重し、国際理解を深める。
全体の内容と概要	異文化理解の概念や現存する問題などを紹介し、学生自ら考え、グループワーク、ディスカッション、発表などを行う。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自己紹介でそれぞれの学生の文化的背景を理解する	各自白い紙に絵や文字で自分を紹介するポスターを作成、自己紹介
2	異文化理解はなぜ必要か、異文化理解とは何かを理解できる	文化とは何か、文化による差異を理解する
3	それぞれの学生の国について、地理的な面から学ぶ事ができる。	国ごとのグループに分かれそれぞれ自国について、場所（地形）、人口、気候、首都、などを発表する。
4	異文化適応について理解することができる	カルチャーショック、逆カルチャーショックの体験を話す
5	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる①	行動、視点、環境による文化の違いを考える。
6	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる②	発想の転換クイズを行い、柔軟な考え方を養う
7	イメージと固定観念について理解できる	固定観念、ファイリングという脳のはたらきを紹介し、実例とともに理解する
8	ステレオタイプが理解できる。	社会的なステレオタイプを紹介し、イメージを話し合う
9	差別について理解することができる①	差別とは何か？差別の種類、それが生まれる背景について理解する
10	差別について理解することができる②	差別の体験を話し、差別をなくすための方法を考える
11	世界各地の価値観について理解する①	価値観について、それぞれの国での考え方について話し合う。
12	世界各地の価値観について理解する②	各地の価値観についての感想と価値観の違いの実体験を話す
13	前期のまとめ	まとめ
14	まとめと解説	期末テスト発表
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	「異文化理解入門」、その他
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	英語資格対策 I		（ NKT13F ）
講義名（コード）	英語資格対策 I A		（ NKT13FA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英検2級・準1級を取得する
全体の内容と概要	文法を理解し、語彙・熟語・長文・listening・作文の練習問題に取り組む
授業時間外の学修	英単語・熟語を覚える
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	時制・態を理解できる	現在・完了形・進行形・受動態を理解し練習問題をする
2	助動詞の働きを理解できる	will/shall/can/may/must/would/shouldの基本的用法を学ぶ
3	2級・準1級の問題に挑戦し弱点を理解できる	2級の過去問題集から長文を解き自分の弱点を知る
4	長文の読み方・出題傾向を理解できる	英検長文の特徴を知り時間内に読む練習をする
5	不定詞・動名詞・分詞を理解できる	不定詞と動名詞の働きを学び慣用表現を覚える
6	listeningに慣れる	英検listeningの特徴を知り問題に取り組む
7	英検2級・準1級の単語・熟語を覚える	各級のよく出る単語・熟語を学び過去問題集の穴埋め問題をする
8	2級・準1級の問題に挑戦し達成度を判断できる	過去問題を通して自分の達成度を判断し、これからの勉強法を考える
9	関係代名詞を理解できる	関係代名詞の使い方を学び、それに関連する問題を解く
10	作文を書ける 1	文章を書く際の構成を学ぶ
11	作文を書ける 2	与えられたトピックを使って自分の意見を書いてみる
12	2級・準1級の問題に挑戦し、自分の弱点を見つけられる	listening・穴埋め・長文・作文を時間内に行う
13	期末テスト対策	期末テストに向けた復習
14	テスト	
15	テストFB	テストのまとめと解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検2級過去問題集・英検準1級集中ゼミ
参考文献・資料等	英検2級総合対策教本・英検準1級過去問題集
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	英語資格対策 I		（ NKT13F ）
講義名（コード）	英語資格対策 I B		（ NKT13FB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英検3級以上に合格する。
全体の内容と概要	3級取得のための対策と問題に取り組む。
授業時間外の学修	「でる順パス単」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	単語1～50 / 時制・態が理解できるようになる	自動詞・他動詞・完了形・進行形・受動態の確認と練習問題を解く。
2	単語51～100 / 助動詞の働きが理解できるようになる	will/shall/can/ may/must/ would/ shouldの基本的用法を学びながら問題を解く。
3	単語101～150 3級の過去問題に挑戦する	3級の過去問題集からの長文を解き、自分の弱点を知る。
4	単語 151～200 / 長文の読み方や出題傾向がわかるようになる	英検長文の特徴を知り、時間内に読む練習をする。
5	単語201～250 / 不定詞・動名詞・分詞が理解できるようになる	不定詞と動名詞の働きを学び、慣用表現を覚える。
6	単語 251～300 / 英検のlisteningに慣れることができるようになる	英検listeningの特徴を知り、問題に取り組む。
7	単語301～350 / 3級の単語・熟語がわかるようになる	各級のよく出る単語・熟語を学び、過去の穴埋め問題を解く。
8	単語351～400 3級の過去問題に挑戦する	過去問題を通して自分の達成度を判断し、これからの勉強法を考える。
9	単語401～450 / 関係代名詞が理解できるようになる	関係代名詞の使い方を学び、それに関する問題を解いてみる。
10	単語451～500 / 作文の書き方が理解できるようになる 1	文章を書く際の構成を学ぶ。
11	単語501～550 / 作文の書き方が理解できるようになる 2	与えられたトピックを使って自分の意見を書いてみる。
12	単語551～600 3級の過去問題に挑戦する	listening・穴埋め・長文・作文を時間内に行う。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検3級過去6回全問題集、英検3級でる順パス単
参考文献・資料等	Evergreen、英検3級総合対策教本
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	観光ビジネス論 I		（ NGB12U ）
講義名（コード）	観光ビジネス論 I A		（ NGB12UA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本における観光産業を理解するとともに、主に長野県の観光事業の特性を理解し、事業構築アイデア醸成や観光ビジネス展開に向けた基礎知識を身につける。
全体の内容と概要	宿泊施設やレジャー施設などの観光事業におけるビジネスモデル（利益構造）を企業概要に基づき研究する。また地域に合わせた観光ビジネスについてアイデア醸成を行う。
授業時間外の学修	事業場見学や現地視察などのフィールドワークを進捗に合わせて計画する。
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で実施するため、ヒヤリングできる程度の日本語語学力が必要。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方 ・観光産業の構造概要 ・グループコミュニケーションと最終目標の設定
2	日本の観光ビジネスの概要を理解することができる	・日本全国の観光産業構造（分類分け・役割・定義づけ） ・日本における観光業法と関連法について理解する
3	長野県の観光ビジネスの概要を理解することができる	・北信地域の観光地と観光業の形態を理解する ・主な企業の紹介とビジネスモデル
4	長野県の観光ビジネスの概要を理解することができる	・東信地域の観光地と観光業の形態を理解する ・主な企業の紹介とビジネスモデル
5	長野県の観光ビジネスの概要を理解することができる	・中信地域の観光地と観光業の形態を理解する ・主な企業の紹介とビジネスモデル
6	長野県の観光ビジネスの概要を理解することができる	・南信地域の観光地と観光業の形態を理解する ・主な企業の紹介とビジネスモデル
7	観光業に関する造詣を深め、ビジネスモデルを構築することができる	・新たな観光ビジネスを検討する ・実現のためのモデルを構築する
8	企画発表を通じて自己の考えを発表することができる	・長野県内における新たな観光ビジネスを企画する ・各チームで作上げたプランを発表する
9	観光業の新たな役割を理解することができる	・移住定住や関係人口増加に向けた観光業の役割 ・観光業が担う人口移動の実態
10	観光業の新たな役割を理解することができる	・ワーケーション構想を理解する ・主な施設の紹介とビジネスモデル
11	観光業の新たな役割を理解することができる	・将来に向けた観光業の新たな取り組みを理解する ・主な取組の紹介とビジネスモデル
12	観光業のトレンドからビジネスモデルを構築することができる	・観光施設の新しい活用方法を検討する ・実現のためのモデルを構築する
13	企画発表を通じて自己の考えを発表することができる	・既存施設を利用した関係人口を増やすビジネスプランを企画する ・各チームで作上げたプランを発表する
14	期末テスト	・記述式テストの実施
15	テスト内容のフィードバック	・テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	特になし（独自資料の作成）
参考文献・資料等	ながの経済「エラベル」・会社四季報・会社案内（パンフレット）・観光白書 等
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	経営学 I		（ NGB120 ）
講義名（コード）	経営学 I A		（ NGB120A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント実務経験、（株）経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	企業経営の仕組みと取り巻く環境を理解する
全体の内容と概要	ビジネスの視野を広げるためにケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	経営学の全体像を理解できるようになる	企業経営の基本
2	Society5.0の社会について理解できるようになる	人工知能（AI）、ビッグデータ時代に起こることとは
3	不確実な時代に生きる術を考察できるようになる	価値観や消費の変化をとらえて企業成長のきっかけを掴む
4	企業の目的を正しく理解できるようになる	企業の目的は売上か利益か。それとも別なものか
5	企業の仕組みを正しく理解できるようになる	企業が永続的に発展するために必要なものはなにか
6	経営理念の意義を正しく理解できるようになる	ビジョンとミッションについて
7	経営理念について考えを深めることができるようになる	ケーススタディ
8	戦略と戦術の違いを正しく理解できるようになる	経営戦略と戦術の違いとは
9	戦略と戦術を使い分けることができるようになる	ケーススタディ
10	マーケティング活動の目的について正しく理解できるようになる	マーケティング活動の目的とは
11	マーケティング活動の種類について正しく理解できるようになる	ケーススタディ
12	企業の社会的責任について正しく理解できるようになる	企業のESG活動について
13	企業の社会的責任について考察ができるようになる	ケーススタディ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員は経営管理の実務経験を活かし、会社活動の原理・組織・財務・戦略・管理などの経営基本知識をケーススタディを用いて指導を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	検定対策 I		（ NKT13N ）
講義名（コード）	検定対策 I A		（ NKT13NA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語OSでのパソコン操作、Microsoft Officeの基礎を習得する 日本語入力をマスターし、Wordで基本的なビジネス文書を作成する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成して基本操作を身につける 検定試験を目標に操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	日本語入力をマスターすることが基本です タイピング練習ができる環境のない場合は、変換表で日本語の文字変換を覚えましょう
履修上の注意事項等	タイピング練習は毎時間おこないますので確実に入力ができるようになりましょう 後期からは資格試験の練習に入りますので、前期で基本的な操作を身につけてください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる 日本語でのタイピングを覚える	教室の使い方、注意、システムの説明・Windowsの基本操作（初回の授業の方で） タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	Wordを起動して操作・保存・終了・ 文字入力（漢字以外）ができる	Wordの基礎（起動→画面構成確認→保存） タイピング練習 文字の入力（ひらがな・カタカナ・アルファベット・記号）
3	文字入力（漢字変換）を覚える。 ファンクションキー・IMEをつかえる	文字入力 漢字変換・ファンクションキー変換・IMEの使用 タイピング練習
4	短文の文章を入力して 効率的な変換を覚える	短文を入力して効率的な変換を覚える
5	長文の文章を入力して ページ設定を覚える	長文を入力してページ設定を覚える
6	ビジネス文書の作成 社内文書の配置を覚える	文書作成 ご案内（社内文書）作成 文章入力→配置→保存まで
7	編集機能・書式設定ができる	編集機能（コピー・切り取り・貼り付け）の活用 書式設定（フォント・段落グループボタン）の利用
8	表の入った文書を作成できる 表の編集ができる	表の作成 表の入った文書の作成・ページ設定
9	ビジネス文書の作成 社外文書の配置を覚える	文書作成 社外文書（あいさつ文の利用）
10	オブジェクトを操作できる	画像・テキストボックスの入った文書作成 （ワードアート・画像・テキストボックス挿入）
11	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
12	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
13	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスター Word & Excel2021 留学生のためのパソコン入門（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	タイピング練習ソフト（MIKA TYPEほか）・レベルに応じた資格試験の練習問題

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	動画マーケティング		（ NKT13U ）
講義名（コード）	動画マーケティング		（ NKT13UX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	桙原 優輝	時間数	30
成績評価教員	桙原 優輝	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	有限会社デザインルーム エム所属	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	動画の基礎となる部分を学習し、動画を用いて自身の伝えたいことを表現できるようにする。
全体の内容と概要	映像制作において必要な知識や、動画撮影・編集の基本的な考え方の解説。Premiere Proの操作解説。
授業時間外の学修	映像素材撮影の指示の可能性あり。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	何気なく視聴している動画に対する意識を変化させる	動画について考えてみよう
2	動画を作ることの意味を理解することができる	動画を観ることと作ること
3	映像制作で使われる表現方法について知ることができる	動画の表現方法を学ぼう
4	撮影に必要な機材の種類やレンズの特性について理解できる	撮影機材のことを知ろう
5	動画制作に関わる法律やルールについて理解することが出来る	映像制作で気を付けるべきこと
6	実際に動画を撮影して学んだことを体感で覚えることができる	動画を撮影してみよう
7	Premiere Proで動画編集するための設定や考え方、UIの見方を知ることができる	動画を編集してみよう1
8	実際に動画を編集し、複数の動画素材を繋げることができるようになる	動画を編集してみよう2
9	テロップや簡単なエフェクトの効果の追加や動画の書き出しができるようになる	動画を編集してみよう3
10	映像の色や音の調整について理解できる	動画を編集してみよう4
11	自分や他の人が作った動画を観て、様々な考え方に触れることができる	完成した映像をみんなで観てみよう
12	Youtubeの規約や権利について理解し動画のアップロードができるようになる	Youtubeにアップロードしてみよう
13	学習してきた内容を再確認する	総復習
14	講義内容の総まとめ 動画提出等	期末試験(動画取り込み～編集・書き出し)
15	総評	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員はWEBデザイン業界での実務経験を活かし、動画の取り方からアップロードまで、学生が将来実務で利用できるレベルの知識を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーション I	（ NKT14D ）	
講義名（コード）	日本語コミュニケーション I A	（ NKT14DA ）	
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	細かなニュアンスを理解した上で、場面に応じて文法、語彙を使い分けコミュニケーションを図ることができるようになる
全体の内容と概要	N 1 の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	疑問詞を見つけることができる	読解：疑問提示文 聴解：情報の整理
2	疑問の答えを見つけることができる	読解：疑問提示文 聴解：敬語
3	主張表現を見つけることができる	読解：主張表現 聴解話者の心情を考える
4	筆者が何を評価しているのか読み取ることができる	読解：主張表現 聴解：漢語
5	指示語を見つけることができる	読解：指示語 聴解：予測
6	J L P T形式の問題を解くことができる	JLPT模試 JLPT模試
7	J L P T形式の問題を解くことができる	JLPT模試 F B JLPT模試 F B
8	指示語を指している言葉を説明できる	指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や対象語を探すことができる	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、文の内容を説明できる	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	文の前後を見て、言い換えている言葉を見つけることができる	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむことができる	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くことができる	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスター読解N1 完全マスター聴解N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語資格対策 I		（ NKT14F ）
講義名（コード）	日本語資格対策 I A		（ NKT14FA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	古風な表現を使った小説や論説文、やや専門的な説明を理解できるようになる
全体的内容と概要	日常生活はもちろん交渉をしたり様々なやり取りができるような文法と語彙を学ぶ
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解できるようになる 1	文法： ～つ～つ、～ともなく、～べく 語彙：第5、6回
2	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解できるようになる 2	文法：～てからというもの、～ながらに、～たままでのことだ 語彙：第6、7回
3	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解できるようになる 3	文法：～をものともせず、～かたわら、c h e c k 語彙：第8、9回
4	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の時系列を追って登場人物の心情が理解できるようになる 1	文法：～めく・～めいた、～やいなや、～ごとき 語彙：第10、11回
5	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の時系列を追って登場人物の心情が理解できるようになる 2	文法：～かと思いきや、～んがため、～のごとく 語彙：第12、13回
6	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の時系列を追って登場人物の心情が理解できるようになる 3	文法：～にして、～だに、～かねて 語彙：第14、15回
7	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の時系列を追って登場人物の心情が理解できるようになる 4	文法：～を限りに、check、まとめの問題 語彙：第16、17回
8	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できるようになる 1	文法：～からいる、～にかかわる、にあって 語彙：第18、19回
9	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できるようになる 2	文法：～ようによっては、check、まとめの問題 語彙：第20、21回
10	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 1	文法：～べからず、(ただ)～のみ、がゆえ、～と相まって 語彙：第22、23回
11	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 2	文法：～にかたくな、～としてあるまじき、～ずにはすまなかった 語彙：第24、25回
12	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 3	文法：～でなくてなんだろう、～極まりない、～を禁じえない 語彙：第26、27回
13	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 4	文法：～にたる、～べくもない、～なくして 語彙：第28、29回
14	まとめと解説	試験
15	まとめと解説	試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	文法：TRY日本語能力試験N1 語彙：日本語パワードリルN1文字語彙
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2024年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	簿記 I		（ NGB12S ）
講義名（コード）	簿記 I A		（ NGB12SA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター（株）、東京精電（株） 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	企業の取引を一定のルールにしたがって記録・計算・整理し報告書を作成する複式簿記のシステムを学び日商簿記初級レベルの知識を身につける
全体の内容と概要	検定試験を目標に簿記の基礎知識（科目・書式）を覚えていく 学期末に検定試験受験を目標にする
授業時間外の学修	日常会話では使わない簿記の用語をまず理解できるよう、身近なものに置きかえて覚えていきましょう
履修上の注意事項等	授業はテキストを中心に進めますが模擬試験プログラムで検定対策も行います

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	簿記のしくみと必要性を理解する	簿記の意味と目的 簿記の用語と勘定科目 資産・負債・資本・収益・費用の意味
2	貸借対照表・損益計算書について理解する	貸借対照表、損益計算書とは何か・貸借対照表、損益計算書の計算 貸借対照表と損益計算書の関係
3	取引の種類、勘定記入のルールについて理解する	取引の意義と種類・勘定の意義と分類・仕訳の意義 取引の8要素・勘定記入のルール・貸借平均の原理
4	仕訳の方法・意味を理解し勘定記入ができる	仕訳について
5	転記の方法・意味を理解し記入できる	転記について
6	仕訳と転記の問題が解ける	仕訳と転記（練習問題）
7	試算表の意味を理解し合計試算表の作成する	合計試算表とは何か
8	試算表の意味を理解し残高試算表の作成	残高試算表とは何か
9	試算表の意味を理解し合計残高試算表の作成	合計残高試算表とは何か
10	すべての試算表が作成できる	試算表作成（練習問題）
11	復習	テスト前練習（仕訳→転記→合計試算表・残高試算表）
12	復習	テスト前練習（仕訳→転記→合計残高試算表）
13	復習	テスト前練習（仕訳→転記→試算表）
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生のための簿記初級ワークブック
参考文献・資料等	各問題集より練習問題
備考	検定対策の模擬試験プログラムも活用します 担当教員はPCスキル及び簿記の実務経験を活かし、日商簿記ベーシック～3級レベルの授業を展開する